

感染研発第237号
令和2年6月26日

各関係大学長
各関係大学学部長 殿
各関係機関の長

国立感染症研究所長
(公印省略)

感染症危機管理研究センター長の公募について（依頼）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、当研究所では令和2年4月に感染症危機管理研究センターが新設されたことに伴い、同センター長を選考することになりました。

感染症危機管理研究センターの業務は、当研究所の所掌業務のうち次に掲げるものです。

- ・ 感染症その他の特定疾患の危機管理に関し、情報の収集、分析と結果の提供を行う。
- ・ 上記の業務に必要な科学的調査／研究（血清及び病原体に関することを含む）と、これらに関する講習を行う。
- ・ 感染症の検査とこれに関する抗原及び抗血清の製造を行う。
- ・ 上記の業務に必要な科学的調査／研究（これらに関するレファレンス業務を含む）と、これらに関する講習を行う。

感染症危機管理研究センターではこれらの業務に関連する次の業務を特に重視しています。

- ・ 関係行政機関への連絡調整と感染症の危機管理に関する情報提供
- ・ 厚生労働省感染症担当部局への感染症対策立案に資する情報提供
- ・ 原因不明感染症の病原体検査、他部の所掌に属さない病原体のレファレンス業務及び病原体検出技術の開発研究
- ・ 地方感染症情報センター及び地方衛生研究所における検査技術の向上及び標準化の支援

なお、当研究所内の関係部、特に感染症疫学センターと連携して業務を行うことが求められます。

つきましては、貴学（学部、機関）、貴所または関係機関において適任者がおられましたら、下記によりご応募賜りたく、周知方よろしくお願い申し上げます。

記

1. 候補者資格条件

- ① 公衆衛生についての研究実績と高い見識を有すること
- ② 感染症学、微生物学、公衆衛生行政についての幅広い知識を有すること

- ③ 研究機関や医療機関、行政機関と連携して、重要な感染症の調査と研究を公衆衛生学的に推進する能力を有すること
- ④ 感染症対策にかかる国際協力を推進する能力を有すること
- ⑤ 感染症危機管理研究センターをまとめ、統括する管理、指導力を持つこと
- ⑥ 学位（博士号）を有すること
- ⑦ 感染症危機管理に関する実績があることが望ましい
- ⑧ 医師であることが望ましい

2. 提出書類

- ① 履歴書（A4縦版横書き、氏名、性別、生年月日、本籍（都道府県名）、現住所、学歴（高等学校卒業以降）、学位、職歴、1カ月以上の海外歴とその内容、所属学会名、学会等での役職名、賞罰、健康状況等）
- ② 業績目録（A4縦版横書き、別紙様式をご参考下さい。）
※コレスポンディングオーサー（責任著書）の論文には、必ず各題名の書き出しに（責）と記入して下さい。
- ③ 主要論文の別刷（写し可）10編以内
- ④ 主要研究概要（400字詰原稿用紙3枚以内）

3. 応募締切日 令和2年7月27日（月）必着

4. 選考採用試験

- ① 書類選考 令和2年7月下旬（予定）
- ② 面接 令和2年8月17日（月）（予定）
（面接に際し、プレゼンテーションをお願いする場合があります。）

5. 採用予定日 令和3年1月1日（予定）

6. 処遇 「一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）」等に基づく。

7. 書類提出先 〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所長宛
応募書類の封筒には「感染症危機管理研究センター長応募」と朱書の上、親展とし、書留で郵送して下さい。なお、提出された書類は返却いたしません。

8. 問い合わせ先 国立感染症研究所 総務部総務課人事係 横川・刑部
電話：03-5285-1111（代表）内線2024
E-mail：[jinji@nih.go.jp](mailto:jinja@nih.go.jp)

業績目録

氏名 _____

1. 著書

2. 学術論文(学会誌発表等)

(1) 欧文

(2) 邦文

3. 学会発表(講演・発表等)

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

(記入上の注意事項(共通))

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名(発表雑誌名)の順で記載し、それぞれを改行すること。
2. 年代の新しいものから順に記載すること。
3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。
(例: Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002)
4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に()書で和訳を記載すること。
5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。(単独は(単)、筆頭は(筆)、その他は(他))
※コレスポンディングオーサー(責任著者)の論文には、必ず各題名の書き出しに(責)と記入すること。
6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。
7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

(参考例)

1. 著書

- ①労働太郎、厚生太郎
(他炎症の組織病態
〇〇社, PP.67-87, 1989

2. 学術論文

(1) 欧文

- ①Taro kousei, Jiro Kousei, Saburou Kousei, Tarou Roudou, Jiro Roudou, Saburou Roudou
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA, 2002
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2002年アメリカ)
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

- ①厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Osaka, JAPAN, 2004
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2004大阪)
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

- ①厚生太郎
(単)ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について
第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

- ①厚生労働科学研究費補助金、(課題名)〇〇〇〇〇
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年
- ②科学研究費補助金、(課題名)□□□□□
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年